第Ⅵ章　分析と考察

1．鹿角市内発見の後期住居跡の特徴について

(1)　鹿角市内で確認された住居を中心に

鹿角市内では、これまでに70ヶ所余りの遺跡が発掘調査されている。このうち縄文時代の竪穴住居跡が確認された遺跡は29遺跡で、総数268軒に及んでいる。

第４表～第13表は、これまでに確認された住居跡観察一覧で、市内で最も古いものは縄文前期の清水向遺跡（八幡平字玉内）である。中期にはいると住居の確認例は飛躍的に増加する。市内の遺跡で集落の全容を知ることができるものとしては、県内でも最大規模を誇る天戸森遺跡があるが、残念ながらこれ以外に集落（ムラ）全体の様子や住居形態・規模等をうかがいしることのできる遺跡は極めて少ない。

大湯環状列石の発掘調査も本年度で第20次調査を終え、少しづつであるが住居跡が検出され、これまでに15軒が確認されている。それらの構築時期は万座・野中堂環状列石それに後続する環状配石遺構群の構築時期である後期初頭～中葉に位置付けられるものであるが、断片的でその全容すらはっきりとしていない。

この項では、市内で確認された後期遺跡・住居跡を中心に概観し、それぞれの特徴を摘出し、後期集落、住居跡の解明の一助としたい。

(2)　市内の後期住居の立地、形態と規模

ア：立地

赤坂Ｂ遺跡：　鹿角市花輪字福士に所在する。縄文時代の住居跡６軒（後期前葉３軒、晩期１軒、時期不明２軒）のほか土坑、フラスコ状土坑等が確認された。後期集落は福士川を見下ろす「馬の背状」の段丘南側の縁辺部に位置する。遺跡の東側は奥羽山脈を背景にするが、西側は鹿角盆地に向け開口し眺望も良く、生活環境としては最良の地といえる。

赤坂Ａ遺跡：　赤坂Ｂ遺跡と同じ段丘に所在し、同遺跡から福士川を400m程遡った南向の斜面に位置する。縄文時代後期中葉の住居跡５軒、不明１軒、フラスコ状土坑、土坑等が確認されている。立地的には赤坂Ｂ遺跡と同じ条件下にあり、生活環境としては最良の地といえる。

大湯環状列石Ｆ$_1$区：　万座環状列石の北北西側の台地縁辺部に位置する。縄文時代後期前葉の住居跡４軒、土坑、フラスコ状土坑が確認されている。同地区の西側斜面には湧水があり、生活環境としては最良の地といえる。

Ｄ$_9$区：　Ｆ$_1$区とは小さな沢を挟んだ南側に立地する。住居跡（後期前葉７軒、

第４表　市内で検出された竪穴住居一覧(1)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模（cm・㎡）			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
1	居熊井	ＳＩ０１	中期末葉～後期初頭	楕円形	330	285	7.28	複式炉	南西壁際	住居内に１個	なし
2	歌内	ＳＩ４３	中期末葉	楕円形	400	318	10.00	地床炉	中央	対の６本	長軸部に貼出
3	鳥居平	ＳＩ２９	中期末葉	円形	324	313	8.04	地床炉	中央	なし	住居北側に石組
4	飛鳥平	ＳＩ３６	後期末葉	円形	370	344	8.26	地床炉	中央	床面に17個	なし
5	飛鳥平	ＳＩ３７	中期末葉	円形	595	445	27.34	複式炉	南西壁際	対の４本	なし
6	飛鳥平	ＳＩ３８	後期中葉	円形		220					
7	飛鳥平	ＳＩ３９	中期末葉	円形	714	678	38.11	複式炉	北西壁際	対の６本	なし
8	飛鳥平	ＳＩ０２	後期末葉～晩期初頭	円形	460	370	13.20	土器埋設石囲炉	中央	特定できず	なし
9	北の林Ⅰ	ＳＩ２３	中期末葉	円形	631	626	33.00	複式炉	西壁際	対の６本	なし
10	北の林Ⅰ	ＳＩ２４	後期初頭	円形	351	324	8.80	石囲炉	南西寄り	住居外に７本	なし
11	北の林Ⅰ	ＳＩ２５	中期末葉	楕円形	725	675	35.40	複式炉	西壁際	壁際に７個	なし
12	北の林Ⅱ	ＳＩ０１		楕円形	250	224	4.28	石囲炉	北西寄り	確認できず	なし
13	北の林Ⅱ	ＳＩ１２	中期末葉	円形	754	632	40.56	複式炉	東壁際	特定できず	なし
14	北の林Ⅱ	ＳＩ１４	中期末葉	長円形	325	283	7.98	複式炉	南壁際	特定できず	なし
15	北の林Ⅱ	ＳＩ１５		楕円形	700	640	34.20	複式炉	南西壁際	特定できず	なし
16	上葛岡Ⅰ	ＳＩ０１	中期末葉	楕円形	595	454	23.40	複式炉	南壁際	対の４本	なし
17	上葛岡Ⅱ	ＳＩ０１(新)		不正楕円形	354	289	7.59	石囲炉（円形）	西寄り	確認できず	なし
18	上葛岡Ⅱ	ＳＩ０１(古)		不正楕円形	354	289	7.59	複式炉	西壁際	確認できず	炉西側に立石
19	上葛岡Ⅱ	ＳＩ０２		不正楕円形	452	308	11.40	石囲炉	南寄り	特定できず	なし
20	上葛岡Ⅱ	ＳＩ０３						石囲炉	東寄り		
21	小豆沢館	ＳＩ０６		円形	290	266	6.21	石囲炉（コ字状）	西寄り	壁際に小柱穴	なし
22	案内Ⅱ	ＳＩ０１	後期末葉	楕円形	320	268		地床炉	中央	壁際	なし
23	案内Ⅱ	ＳＩ０２		楕円形	316	298		地床炉	中央	確認できず	なし
24	案内Ⅱ	ＳＩ０３	後期後葉	楕円形	311	265		地床炉	中央	壁際	なし
25	案内Ⅱ	ＳＩ０４	後期後葉	楕円形	525	350		地床炉	中央	壁際	なし
26	猿ケ平Ⅰ	ＳＩ０１	後期初頭	円形	373	338	10.30	石囲炉（コ字状）	西壁際	住居内外を一巡	なし
27	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０１	後期～晩期	円形	330	312	8.19	地床炉	中央	炉・壁間を一巡	なし

第５表　市内で検出された竪穴住居一覧(2)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模 (cm・㎡)			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
２８	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０２（A）		不整円形	380	348	10.62	石囲炉（方形）	西寄り	壁際	なし
２９	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０２（B）						地床炉	東寄り	壁際	なし
３０	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０３	中期末葉～後期初頭	円　形	428	394	13.00	石囲炉（方形）	北東寄り	南東側に２個	なし
３１	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０４		円　形	298	288	6.58	地床炉	中央	特定できず	なし
３２	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０５	中期末葉	円　形	592	540	24.75	複式炉	北西壁際	特定できず	なし
３３	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０６		円　形	354	320	9.37	地床炉	北寄り	対の４本	なし
３４	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０７		円　形	300	290	7.29	地床炉	中央	確認できず	なし
３５	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０８（A）		円　形	395	370	11.62	地床炉	北東寄り	特定できず	なし
３６	猿ケ平Ⅱ	ＳＩ０８（B）						地床炉	北寄り	特定できず	なし
３７	案内Ⅲ	ＳＩ０８		円　形	408	399		石囲炉	東寄り	壁際に６本	なし
３８	案内Ⅲ	ＳＩ０４		円　形	380	334	10.82	石囲炉（円形）	西寄り	確認できず	西側床面に埋設土器
３９	案内Ⅲ	ＳＩ０５		円　形	469	468	17.18	石囲炉	南東側	特定できず	なし
４０	案内Ⅲ	ＳＩ０３		円　形	(3.80)	(3.30)	(8.90)	石囲炉	中央	壁際	なし
４１	案内Ⅲ	ＳＩ３４		円　形	412	402	11.71	石囲炉（方形）	中央	壁際	なし
４２	案内Ⅲ	ＳＩ３６		楕円形	417	364		石囲炉	南東側	壁際	なし
４３	中の崎							石囲炉			
４４	妻の神Ⅲ	ＳＩ４２		不製円形	243	197	5.10	石囲炉（円形）	南東寄り	特定できず	なし
４５	妻の神Ⅲ	ＳＩ４３		不整円形	435	425	15.50	石囲炉（円形）	南東寄り	壁際	なし
４６	案内Ⅰ	ＳＩ０１		不整円形	240	220	4.05	石囲炉（方形）	北寄り	確認できず	なし
４７	案内Ⅰ	ＳＩ０２		楕円形	440	336	10.62	石囲炉（方形）	西寄り	壁際	なし
４８	案内Ⅰ	ＳＩ０３		円　形	435	410	15.45	石囲炉（方形）	北壁に接す	特定できず	なし
４９	案内Ⅰ	ＳＩ０４		(円形)				石囲炉（方形）	北壁に接す	特定できず	なし
５０	案内Ⅰ	ＳＩ０５		(円形)						特定できず	なし
５１	案内Ⅰ	ＳＩ０６	中期末葉	楕円形	395	310	9.72	複式炉	西壁際	対の６本	なし
５２	妻の神Ⅱ	ＳＩ０４						石囲炉（円形）		確認できず	
５３	妻の神Ⅱ	ＳＩ０５		不整円形	370	336	9.55	石囲炉（円形）	西寄り	確認できず	なし
５４	妻の神Ⅱ	ＳＩ２５									

第６表　市内で検出された竪穴住居一覧(3)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模(cm・㎡)			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
５５	妻の神Ⅱ	ＳＩ３７									なし
５６	妻の神Ⅱ	ＳＩ３８						石囲炉	不明		なし
５７	案内Ⅴ	ＳＩ０４	晩期					石囲炉（円形）			周辺に１１個の角礫
５８	案内Ⅴ	ＳＩ１７	晩期	(円形)	450			石囲炉			なし
５９	案内Ⅴ	ＳＩ１１１	中期末葉	円形	295	283	7.85	石囲炉（方形）	南西寄り	特定できず	なし
６０	案内Ⅵ	ＳＩ１０１						石囲炉			
６１	案内Ⅵ	ＳＩ１０６	後期?	楕円形	366	322	10.10	石囲炉（方形）	南西寄り	特定できず	なし
６２	案内Ⅵ	ＳＩ１０７						複式炉		確認できず	
６３	案内Ⅵ	ＳＩ１１２	後期末葉～晩期	楕円形	345	265	7.10	地床炉	中央	確認できず	なし
６４	案内Ⅵ	ＳＩ１１９	後期?					石囲炉	中央	確認できず	なし
６５	玉内	ＳＩ１２１	中期末葉	円形	380			複式炉	南壁際	特定できず	なし
６６	玉内	ＳＩ１２２									
６７	清水向	１号	前期	円形				石囲炉	中央	壁際	なし
６８	清水向	２号	前期	円形				石囲炉			
６９	黒森山麓	１号	中期末葉	円形	径７～８ｍ			石囲炉（複式炉）	南壁際	特定できず	なし
７０	黒森山麓	２号	中期末葉					複式炉	南壁際	特定できず	なし
７１	黒森山麓	３号	中期末葉	楕円形	径5.5m～			複式炉	南壁際	対の６本	炉内に埋設土器
７２	黒森山麓	４号	中期末葉	円形	径８～９ｍ			複式炉	南壁際	対の８本	石棒が立つ
７３	黒森山麓	５号			径７ｍ程			石囲炉（方形）	南側	特定できず	
７４	下内野Ⅱ	０１号	中期末葉	楕円形				複式炉		特定できず	
７５	下内野Ⅱ	０２号	中期末葉	楕円形	256	235	4.67	石囲炉（円形）	ほぼ中央	壁際	なし
７６	下内野Ⅱ	０３号	中期末葉	楕円形				石囲炉（円形）	ほぼ中央		
７７	下内野Ⅱ	０４号	中期末葉	楕円形				石囲炉（円形）	北寄り	特定できず	
７８	下内野Ⅱ	０５号	中期末葉	楕円形				石囲炉（方形）	北寄り	特定できず	
７９	赤坂Ｂ	ＳＩ０１		方形	308	300	8.40	石囲炉	中央	四隅	なし
８０	赤坂Ｂ	ＳＩ１０１	後期前葉	円形	308	290	6.15	石囲炉（方形）	ほぼ中央	対の４本	床に「二字」の組石
８１	赤坂Ｂ	ＳＩ１０２	後期前葉	円形	415	375		石囲炉（方形）	北西寄り	壁際	

第７表　市内で検出された竪穴住居一覧(4)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模（cm・㎡）			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
８２	赤坂Ｂ	ＳＩ１０３	晩期	円形	540	540	20.80	石囲炉（円形）	中央	主柱穴と壁柱穴	東側に張出施設
８３	赤坂Ｂ	ＳＩ１０４	後期前葉	円形	317	310	14.80	石囲炉（方形）	中央	壁際	なし
８４	赤坂Ｂ	ＳＩ１０６		円形	400			石囲炉（円形）	ほぼ中央		なし
８５	赤坂Ａ	ＳＩ０３	後期中葉	円形	372		9.78	地床炉	南西寄り	特定できず	南側に出入口
８６	赤坂Ａ	ＳＩ１１	晩期	円形	386		10.50	石囲炉	中央	主柱穴と壁柱穴	
８７	赤坂Ａ	ＳＩ１３	後期中葉	楕円形	506	420	14.3	石囲炉（楕円形）	南寄り	壁際	南側に出入口
８８	赤坂Ａ	ＳＩ１４	後期中葉	楕円形	628	474	20.25	地床炉	中央	壁寄り離れ一巡	南側に出入口
８９	赤坂Ａ	ＳＩ１７	後期中葉	楕円形	465	402	12.54	地床炉	中央	特定できず	
９０	赤坂Ａ	ＳＩ１８	後期中葉	円形	380		9.64	地床炉	南寄り	特定できず	南側に出入口
９１	天戸森	ＳＩ０９	中期後半	楕円形	396	341	10.10	地床炉	西寄り	壁際	なし
９２	天戸森	ＳＩ１５	中期後半	楕円形		10.30		石囲炉（楕円形）	西壁際	対の６本	なし
９３	天戸森	ＳＩ１６	中期後半	楕円形	502	438	15.40	複式炉	東壁際	対の４本	なし
９４	天戸森	ＳＩ１９	中期後半	楕円形	258	218	4.20	石囲炉（コ字状）	南東寄り	特定できず	なし
９５	天戸森	ＳＩ２２	中期後半	楕円形	475	390	15.8	複式炉	北東壁際	壁際	なし
９６	天戸森	ＳＩ２３	中期後半	楕円形	328	236	5.70	石囲炉（コ字状）	南東寄り	特定できず	なし
９７	大湯Ｆ１	ＳＩ４０３	後期前葉	楕円形	300	280	5.12	石囲炉（方形）	東寄り	住居外に一巡	東壁にコ字組石
９８	大湯Ｆ１	ＳＩ４０５	後期前葉	円形	270	270	5.50	石囲炉（円形）	南寄り	対の４本	東壁際に４個の置石
９９	大湯Ｆ１	ＳＩ４０８	後期前葉	円形	330	310	8.21	石囲炉（円形）	ほぼ中央	対の４本	南東壁際に３個の置石
１００	大湯Ｆ１	ＳＩ４１０	後期前葉	楕円形	270	230	4.40	石囲炉（円形）	若干北寄り	対の４本	なし
１０１	大湯Ｄ９	ＳＩ０１	後期前葉	円形	360			石囲炉（円形）	ほぼ中央	壁際	
１０２	大湯Ｄ９	ＳＩ０２	後期中葉	円形	420			石囲炉（方形）	南寄り	壁際	壁際に特殊組石
１０３	大湯Ｄ９	ＳＩ０３	後期前葉	円形	370			石囲炉（円形）	やや東寄り	壁際	
１０４	大湯Ｄ９	ＳＩ０４	後期前葉	円形	290			石囲炉（円形）	西側壁寄り	確認できず	
１０５	大湯Ｄ９	ＳＩ０５	後期前葉	円形	294			石囲炉（円形）	ほぼ中央	壁際	
１０６	大湯Ｄ９	ＳＩ０６	後期前葉	楕円形	284			石囲炉（円形）	ほぼ中央	壁際	
１０７	大湯Ｄ９	ＳＩ０７	後期前葉	楕円形	500	400		石囲炉（円形）	やや西寄り	壁際	
１０８	大湯Ｄ９	ＳＩ０８						確認されず			

第８表　市内で検出された竪穴住居一覧(5)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模(cm・㎡)			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
109	大湯B2	SI01	後期中葉	楕円形	470	320	11.80	地床炉	中央	壁際	なし
110	大湯B2	SI02	後期前葉	円形	440	440	15.20	石囲炉	やや西寄り	対の４本?	張出施設
111	大湯分布	1号	後期前葉	円形	300			石囲炉（円形）	中央	壁際	
112	御休堂	2号	中期末葉～後期初頭	円形	288	280	5.52	石囲炉（方形）	北東寄り	壁際	なし
113	御休堂	5号	中期末葉～後期初頭	円形	281	250	4.25	石囲炉（方形）	やや南寄り	５本柱	なし
114	御休堂	6号	中期末葉～後期初頭	円形	275	257	5.13	石囲炉（方形）	やや東寄り	対の４本	
115	天戸森	1号	中期後葉	円形	420	402	11.64	石囲炉（円形）	南東寄り	対の４本	テラス
116	天戸森	2号	中期後葉	円形							
117	天戸森	3号	中期後葉	円形	260			石囲炉（楕円形）	南東壁際	壁際	
118	天戸森	4号	中期後葉	円形	360					検出できず	なし
119	天戸森	5A号	中期後葉	円形	364	342	8.48	複式炉	南西壁際	対の４本	なし
120	天戸森	5B号	中期後葉	円形	368	354	9.36	複式炉	南西壁際	対の４本	なし
121	天戸森	6号	中期後葉	楕円形	588	500	19.36	複式炉	北壁際	対の６本	なし
122	天戸森	7号	中期後葉	楕円形	600	450		複式炉	南西壁際	対の４本	なし
123	天戸森	8号	中期後葉	楕円形	563	440	14.96	複式炉	南西壁際	確定できず	なし
124	天戸森	9号	中期末葉	円形	988	904	73.28	複式炉	南西壁際	対の４本+1本	なし
125	天戸森	10号	中期後葉	隅丸方形	332	284	7.28	確認できなかった		特定できず	なし
126	天戸森	11号	中期後葉～末葉	円形	429	424	10.29	複式炉	南西壁際	特定できず	なし
127	天戸森	12号	中期後葉	隅丸方形	596	520	26.08	複式炉	南西壁際	対の６本＋２本	なし
128	天戸森	13号	中期後葉～末葉	隅丸方形	400	374	10.52	複式炉	南壁際	方形配置の８本	テラス
129	天戸森	14号	中期後葉	楕円形	570	470	19.40	複式炉	東壁際	対の６本＋１本	なし
130	天戸森	15号	中期後葉	楕円形	360	300	6.84	複式炉	南壁際	確定できず	なし
131	天戸森	16号	中期後葉	楕円形	667	571	23.88	複式炉	南壁際	対の６本＋１本	なし
132	天戸森	17A号	中期末葉	楕円形	500	493	16.20	複式炉	南壁際	対の４本	なし
133	天戸森	17B号	中期末葉		368	286		石囲炉	南東寄り	確認できなかった	なし
134	天戸森	18号	中期後葉	楕円形	560	485	17.96	石囲炉	若干南寄り	対の４本＋２本	なし
135	天戸森	19号	中期後葉	楕円形	483	374	11.72	石囲炉（円形）	南寄り	４本	なし

第９表　市内で検出された竪穴住居一覧(6)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模(cm・㎡)			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
136	天戸森	２０号	中期中葉	隅丸方形	348	334		検出されなかった		４本	なし
137	天戸森	２１Ａ号	中期後葉	円形	350	345	10.16	検出されなかった		４本	なし
138	天戸森	２１Ｂ号	中期後葉	円形	282	266	4.96	複式炉	南西寄り	壁際	なし
139	天戸森	２２号	中期後葉	円形	368	345	10.04	複式炉	北壁際	対の４本	なし
140	天戸森	２３号	中期後葉	円形	364	326	8.24	石囲炉	東壁際	４本柱	なし
141	天戸森	２４号	中期後葉	楕円形	417	350	9.44	石囲炉	西寄り	４本柱	なし
142	天戸森	２５号	中期末葉	楕円形	1424	1046	99.68	石囲炉＋地床炉	南壁際	対の10本	テラス
143	天戸森	２６号	中期中葉	円形	237	234	3.92	検出されなかった		確定できず	なし
144	天戸森	２７号	中期後葉	楕円形	390	301	8.08	石囲炉	若干南西寄り	確定できず	テラス
145	天戸森	２８号	中期後葉～末葉	楕円形	360	286	7.48	石囲炉（楕円形）	やや南東寄り	４本柱	なし
146	天戸森	２９Ａ号	中期中葉	楕円形	948	768	54.56	複式炉	南壁際	対の１０本	なし
147	天戸森	２９Ｂ号	中期後葉	円形	746	702	37.08	石囲炉	若干南西寄り	壁際	なし
148	天戸森	３０号	中期後葉～末葉	円形	326			石囲炉（方形）	ほぼ中央	確定できず	なし
149	天戸森	３１号	中期後葉	円形	344	340	7.52	複式炉	東壁際	壁際・住居外	なし
150	天戸森	３２号	中期後葉	楕円形	430	391	11.68	複式炉	北西壁際	対の４本	なし
151	天戸森	３３号	中期後葉	円形	438	409	12.80	地床炉	やや南東寄り	４本柱	なし
152	天戸森	３４号	中期末葉	円形	436	424	13.84	複式炉	東壁際	対の６本	テラス
153	天戸森	３６号	中期後葉	円形	326	277	5.88	石囲炉	やや南西寄り	５本柱	なし
154	天戸森	３７号	中期後葉	楕円形	580	404	19.04	地床炉	やや南東寄り	対の６本	なし
155	天戸森	３８号	中期後葉	円形	387	356	10.16	石囲炉（楕円形）	やや南西寄り	５本柱	なし
156	天戸森	３９号	中期中葉	楕円形		392		重複により消失		４本柱	なし
157	天戸森	４０号	中期後葉～末葉	円形	485	466	14.16	複式炉	西壁際	対の６本	テラス
158	天戸森	４１号	中期後葉	五角形	326	242	4.56	検出されなかった		角隅に５本	なし
159	天戸森	４２Ａ号	中期後葉	楕円形	1660	8.74	118.09	複式炉	南壁際	対の１４本	なし
160	天戸森	４２Ｂ号	中期中葉～後葉	楕円形	1010	730	53.89	検出されなかった	なし	対の６本	なし
161	天戸森	４３号	中期後葉	楕円形	742	600	30.44	複式炉	南壁際	対の６本＋１本	なし
162	天戸森	４４号	中期後葉	円形	344	303	7.48	検出されなかった		４本柱	

第10表　市内で検出された竪穴住居一覧(7)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模（cm・㎡）			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
163	天戸森	45A号	中期後葉	楕円形	1136	865	79.76	複式炉＋地床炉	北西壁際	対の10本	なし
164	天戸森	45B号	中期後葉	楕円形	1036	740		複式炉＋地床炉	北西壁際	対の10本	なし
165	天戸森	45C号	中期後葉	楕円形	760	740		地床炉	南東寄り	対の6本	なし
166	天戸森	46号	中期後葉	円形	319	312	6.68	地床炉	ほぼ中央	5本柱	なし
167	天戸森	47号	中期後葉	不整楕円形	596	424	18.64	地床炉	やや南寄り	対の6本	なし
168	天戸森	48号	中期後葉	楕円形	306	240		石囲炉	ほぼ中央	特定できず	なし
169	天戸森	49号	中期後葉～末葉	円形	276	272	4.76	複式炉	西壁際	5本柱	なし
170	天戸森	50号	中期後葉	楕円形	312	268	5.60	地床炉	やや南西寄り	対の4本	なし
171	天戸森	51号	中期後葉	楕円形	378	327	7.84	石囲炉（コ字状）	やや南寄り	確定できず	テラス
172	天戸森	52号	中期後葉	円形	354	352	8.56	石囲炉（楕円形）	やや西寄り	4本or5本柱	なし
173	天戸森	53号	中期後葉	楕円形	370	313	7.16	複式炉	やや東寄り	対の6本＋1本	なし
174	天戸森	54号	中期後葉	円形	436	426	11.92	複式炉＋地床炉	西壁際	対の4本	なし
175	天戸森	55号	中期後葉	円形	288	261	4.84	石囲炉（U字状）	やや南西寄り	特定できず	なし
176	天戸森	56号	中期後葉	不整円形	288	281	5.60	地床炉	やや西寄り	対の2本＋2本	なし
177	天戸森	57号	中期中葉	不整円形	418	392	11.40	検出できなかった		検出できなかった	なし
178	天戸森	58号	中期後葉～末葉	隅丸方形	1248	800	79.84	石囲炉	西壁際	対の8本	なし
179	天戸森	59号	中期後葉	円形		9.28		地床炉	やや北寄り	対の6～8本	なし
180	天戸森	60号	中期末葉	楕円形	564	470	19.08	複式炉	南壁際	対の4本＋1本	テラス
181	天戸森	61号	中期末葉	円形	468	444	11.88	複式炉	東壁際	対の4本	なし
182	天戸森	62AB号	中期後葉	楕円形	672	526	26.40	石囲炉（楕円形）	西寄り	対の6本	テラス
183	天戸森	62C号	中期後葉	円形	311	300	6.20	検出されなかった		4本柱	なし
184	天戸森	62D号	中期後葉	楕円形	392	352		検出されなかった		対の6本	なし
185	天戸森	62E号	中期後葉	円形	382	354	8.96	複式炉?	東壁際	5本柱	テラス
186	天戸森	62F号	中期後葉～末葉	楕円形	288	260	5.16	複式炉	北壁際	対の2本	なし
187	天戸森	63号	中期後葉	楕円形	316	270	6.00	複式炉	東壁際	4本柱	なし
188	天戸森	64号	中期中葉	楕円形	690	480	25.88	検出されなかった		4本柱	なし
189	天戸森	65号	中期後葉	楕円形	802	601	34.52	石囲炉（コ字状）	やや北寄り	対の4本	テラス

第11表　市内で検出された竪穴住居一覧(8)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模(cm・㎡)			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
190	天戸森	66号	中期末葉	楕円形	421	328	10.52	石囲炉	やや南寄り	1本確認	なし
191	天戸森	67号	中期後葉	円形	490	459	16.68	複式炉	南西壁際	確認できなかった	なし
192	天戸森	68号	中期後葉	隅丸方形	483	371	14.92	地床炉	ほぼ中央	4本柱	なし
193	天戸森	69号	中期中葉	楕円形	390	315	9.52	地床炉2基	北西・南東	対の6本	なし
194	天戸森	70号	中期末葉	不整円形	497	474	20.12	複式炉	南壁際	対の4本	なし
195	天戸森	71A号	中期末葉	円形	480	472	14.84	複式炉	南壁際	対の6本	なし
196	天戸森	71B号	中期後葉	楕円形	786	568	23.52	複式炉	東壁際	対の8本	なし
197	天戸森	71C号	中期後葉	楕円形	468	324	11.20	地床炉	やや東寄り	対の4本	なし
198	天戸森	72号	中期後葉	楕円形	356	394	10.96	地床炉+土器片囲炉	北寄り・北東壁	5本柱	なし
199	天戸森	73号	中期中葉～後葉	円形	240	240	3.96	検出されなかった		1本確認	なし
200	天戸森	74A号	中期後葉	楕円形	490	390	14.28	石囲炉	やや南寄り	6本	なし
201	天戸森	74B号	中期後葉	楕円形	646	447	19.12	石囲炉	やや南寄り	対の8本	なし
202	天戸森	75号	中期後葉	隅丸方形	386	368	11.60	地床炉	ほぼ中央	4本柱	なし
203	天戸森	76号	中期中葉	楕円形	306	273	5.32	地床炉	ほぼ中央	1本確認	なし
204	天戸森	77A号	中期後葉	楕円形	414	320	9.84	石囲炉	やや南寄り	壁際	なし
205	天戸森	77B号	中期後葉	楕円形	556	386	17.12	石囲炉	やや南寄り	対の4本	なし
206	天戸森	78A号	中期後葉	楕円形	242	268	424	石囲炉（楕円形）	ほぼ中央	確認できなかった	なし
207	天戸森	78B号	中期中葉	楕円形	640	504	28.36	地床炉	やや東寄り	対の6本	テラス
208	天戸森	79号	中期中葉	楕円形	460	312	10.52	地床炉	やや南寄り	対の8本	なし
209	天戸森	80号	中期後葉	楕円形	434	344	11.36	地床炉	ほぼ中央	対の6本	なし
210	天戸森	81号	中期後葉	不整楕円形	360	280	7.24	検出されなかった		特定できず	なし
211	天戸森	82号	中期後葉	円形	396	386	11.08	地床炉	ほぼ中央	特定できず	なし
212	天戸森	83号	中期後葉	円形	416	412	13.08	石囲炉（方形）	ほぼ中央	対の4本+1奔	なし
213	天戸森	84号	中期後葉	楕円形	872	784	50.56	地床炉	ほぼ中央	5本柱	なし
214	天戸森	85A号	中期後葉	楕円形	1068	514	50.52	石囲炉（方形）	やや南寄り	対の10本	なし
215	天戸森	85B号	中期後葉	楕円形	1068	475				対の12本	なし
216	天戸森	85C号	中期後葉	楕円形	939	432				対の10本	なし

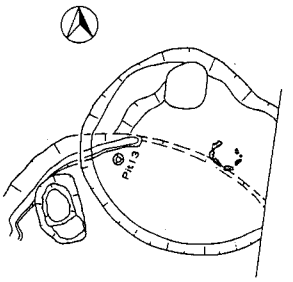
第12表　市内で検出された竪穴住居一覧(9)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模(cm・㎡)			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
217	天戸森	85D号	中期後葉	楕円形	888	370				対の10本	なし
218	天戸森	85E号	中期後葉	楕円形	888	340				対の10本	なし
219	天戸森	86号	中期後葉	楕円形	681	447	24.76	石囲炉（楕円形）	やや東寄り	対の8本	なし
220	天戸森	87号	中期中葉	楕円形	1600	844	109.60	土器埋設炉	やや北東寄り	対の12本	なし
221	天戸森	88A号	中期中葉	楕円形	360	320	7.76	検出されなかった		特定できず	なし
222	天戸森	88B号	中期後葉	楕円形	566	360	15.86	石囲炉（楕円形）	やや東寄り	対の6本+1本	東壁に張出
223	天戸森	89号	中期後葉	円形	298	279	6.36	地床炉	ほぼ中央	4本柱	なし
224	天戸森	90号	中期後葉	円形	319	291	6.80	土器埋設炉	やや南寄り	5本柱	なし
225	天戸森	91号	中期後葉	円形	374	360	8.80	地床炉	やや南西寄り	特定できず	なし
226	天戸森	92号	中期後葉	円形	300	283	6.12	検出されなかった		特定できず	なし
227	天戸森	93号	中期後葉	楕円形	380	426	12.64	検出されなかった		特定できず	なし
228	天戸森	94号	中期後葉	楕円形	252	218	4.20	検出されなかった		4本柱	なし
229	天戸森	95号	中期後葉	楕円形	411	321	9.32	地床炉		特定できず	なし
230	天戸森	96A号	中期後葉	楕円形	288	233	5.16	検出されなかった		特定できず	なし
231	天戸森	96B号	中期中葉～後葉	方形	456	320	12.08	地床炉	やや北寄り	特定できず	なし
232	天戸森	97A号	中期後葉	円形	311	281	6.28	地床炉	ほぼ中央	4本柱	なし
233	天戸森	97B号	中期中葉～後葉	楕円形	450	334	10.96	地床炉	やや南東寄り	4本柱	なし
234	天戸森	98号	中期後葉	円形	352	326	8.24	地床炉	ほぼ中央	特定できず	なし
235	天戸森	99A号	中期中葉～後葉	円形	360	330	9.24	地床炉	やや南寄り	対の2本	なし
236	天戸森	99B号	中期中葉～後葉	ホタテ貝形	430	330	12.74			対の2本	なし
237	天戸森	100A号	中期中葉	楕円形	1615			地床炉	北壁際		なし
238	天戸森	100B号	中期中葉～後葉	楕円形	352	262	6.52	検出されなかった		対の4本	なし
239	天戸森	100C号	中期後葉	楕円形	562	420	20.12	地床炉	やや南東寄り	対の4本+2本	なし
240	天戸森	101号	中期後葉	楕円形	960	636	47.76	複式炉	東壁際	対の8本	テラス
241	天戸森	102号	中期後葉～末葉	楕円形	417	366	9.12	複式炉	東壁際	対の4本	なし
242	天戸森	103号	中期後葉	楕円形	455	378	12.68	複式炉	南壁際	対の4本	なし
243	天戸森	104号	中期末葉	楕円形	414	374	10.60	複式炉	南壁際	対の4本	なし

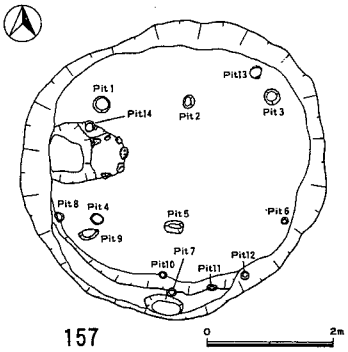
第13表　市内で検出された竪穴住居一覧(10)

番号	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模(cm・㎡)			炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
					長軸	短軸	面積				
244	天戸森	105A号	中期後葉	円形	342	360	9.36	検出できなかった		対の4本	なし
245	天戸森	105B号	中期後葉	円形	390	366	10.52	検出できなかった		4本柱	なし
246	天戸森	106号	中期中葉	隅丸方形	1202	682	74.88	地床炉	やや北寄り	対の12本	埋設土器
247	天戸森	107号	中期後葉	楕円形	482	356	12.40	検出できなかった		対の6本+2本	
248	天戸森	108号	中期後葉	円形	374	384	10.52	複式炉	南東壁際	4本柱	テラス
249	天戸森	109号	中期後葉	楕円形		858		地床炉	やや東寄り	対の8本	なし
255	天戸森	110A号	中期後葉	楕円形	1266	560		石囲炉（円形）	ほぼ中央	対の10本	なし
256	天戸森	110B号	中期後葉～末葉	円形				石囲炉（楕円形）	ほぼ中央	検出できなかった	なし
257	天戸森	111号	中期中葉～後葉	円形	260	245	4.48	石囲炉（円形）	ほぼ中央	4本柱	なし
258	天戸森	113号	中期後葉	方形	276	237	5.64	土器片囲炉	ほぼ中央	特定できず	テラス
259	天戸森	114号	中期後葉	楕円形	1640	740	119.99	地床炉	北壁寄り	対の8本	
260	天戸森	115号	中期後葉	円形	370	374	9.92	複式炉	南壁際	対の4本	テラス
261	天戸森	116号	中期後葉	円形	720	736	41.60	複式炉・地床炉	南東壁際・北寄り	対の6本	なし
262	天戸森	117号	中期後葉	楕円形		530		地床炉	やや南寄り	対の4本	改築あり
263	天戸森	118号	不明	不明							
264	天戸森	119号	中期中葉～後葉	円形	233	225	3.52	地床炉	ほぼ中央	検出できなかった	
265	天戸森	120号	中期中葉	方形	385	380	12.44	土器埋設炉	ほぼ中央	四隅	なし
266	天戸森	121号	不明	楕円形	382	345	9.92	検出できなかった		対の4本+2本	なし
267	天戸森	122号	中期後葉	円形	345	333	6.88	検出できなかった		4本柱	なし
268	天戸森	123号	中期後葉～末葉					土器埋設炉			

※　遺構名、構築時期、形態、規模については各報告書に掲載されているものを採用した。
※　参考にした報告書については割愛した。間違いがあれば執筆担当者の入力ミスである。

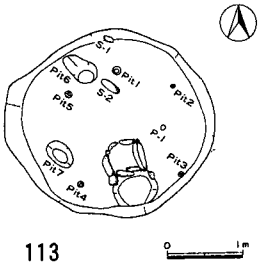


256
天戸森（ＳＩ110Ｂ）

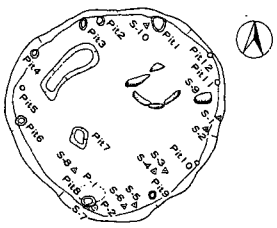


157
天戸森（ＳＩ４０）

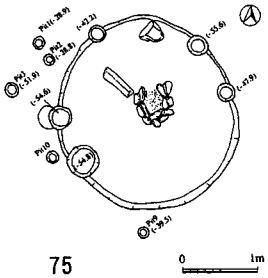
1
居熊井（ＳＩ０１）



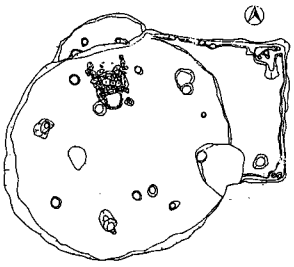
113
御休堂（ＳＩ０５）



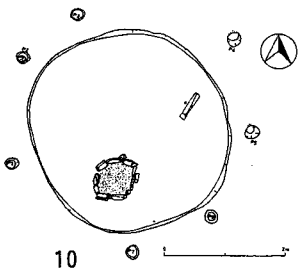
112
御休堂（ＳＩ０２）



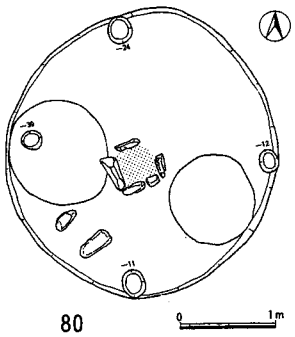
75
下内野（ＳＩ０２）



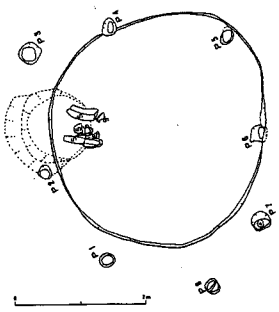
6
飛鳥平（ＳＩ３８）



10
北ノ林Ⅰ（ＳＩ２４）

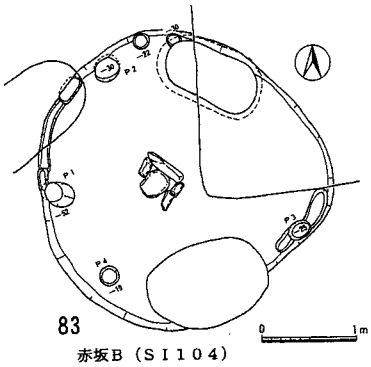


80
赤坂Ｂ（ＳＩ１０１）



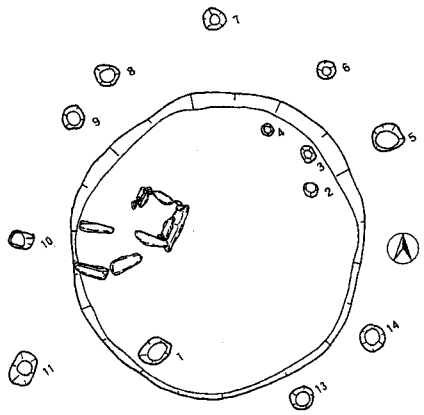
26 猿ケ平Ⅰ（ＳＩ０１）

※番号は第４表～
13表に対応する
※実測図は収載
報告書から

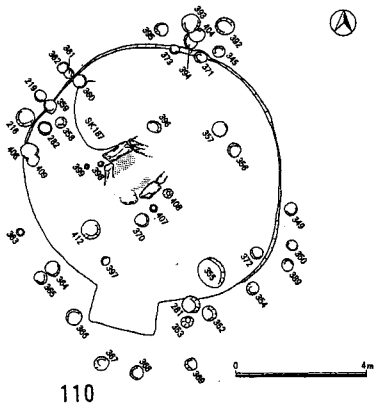


83
赤坂Ｂ（ＳＩ１０４）

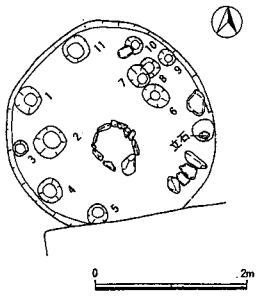
第71図　市内遺跡確認住居(1)



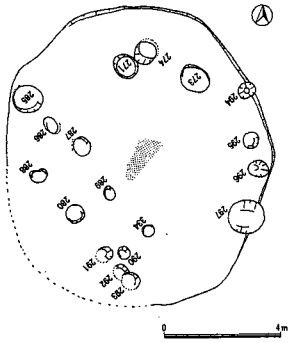
97
大湯F１区（ＳＩ４０３）



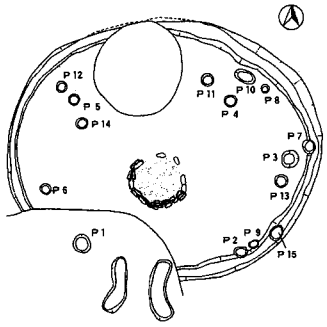
110
大湯Ｂ２区（ＳＩ０２）



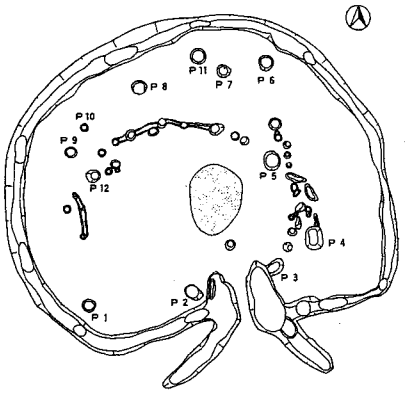
98
大湯F１区（ＳＩ４０５）



109
大湯Ｂ２区（ＳＩ０１）

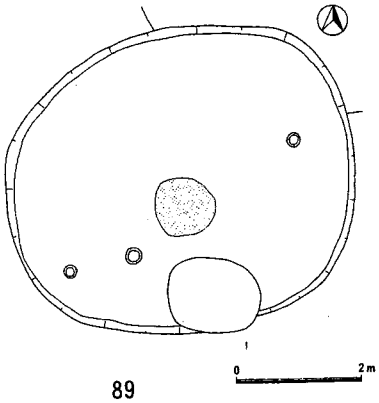


87
赤坂A（ＳＩ１３）



88
赤坂A（ＳＩ１４）

※番号は第４表～
13表に対応する
※実測図は収載
報告書から



89
赤坂A（ＳＩ１７）

第72図　市内遺跡確認住居(2)

第14表　住居平面形態の分類

平　面　形 住居構築時期	円形（略円形）	楕円形	その他 不明
中期末葉から初頭	３０．112．113．114	1	
後期初頭	１０．２６		
後期前葉	８０．８１．８３．９８．９９ 101．103．104．105．110．111	９７．100．106．107．109	
後期中葉	８５．９０．102	８７．８８．８９	
後期後葉		２４．２５	
後期末葉	4	２２	
後期末葉～晩期	8	６３	
後期初頭から末葉	６１		６４．

データ検体数：３７軒

中葉１軒、不明１軒)、フラスコ状土坑等が確認されている。本年度の調査によって後期前葉の住居が２軒追加された。

中小坂遺跡：　鹿角郡小坂町中小坂に所在する。調査の結果縄文後期後半の住居跡３棟、配石遺構、土坑が確認された。住居は小坂川の支流である苗代沢川の谷間に形成された東西に長く、南側を向く段丘で、前後に山地地形が迫っており、日照条件は決して良好と言えない。

イ：平　面　形

第14表は、鹿角市内で確認された縄文時代中期末葉から後期末葉の住居跡37軒（各報告書で構築時期を明示しているもの）に対して平面形態を分類したものである。

この表からは、中期後半まで住居平面形態が楕円形を基調として推移してきたものが、円形へ移行していくかのように看取される。しかし、天戸森遺跡をみても中期末葉まで楕円形・円形が共存している傾向があることから、一概に楕円形から円形へという移行は成り立たず、共存という過程をたどると言ったほうがよい。中期と後期の住居の相違点として、①柱配置、②長軸（主軸）方向の２点の違いが挙げられる。

①柱穴配置：　中期の円形・楕円形住居とも長軸（主軸）方向に対して、２～５対の対称的な柱配置を示す。しかし後期初頭～前葉の住居の場合、円形のものは対の４本または住居外を一巡するものがみられるが柱配置を特定できないものがある。

一方楕円形のものは床面の壁際に沿うといった特徴を持っている。

さらに、中葉になると住居ほぼ中央に設けられた炉を囲むように方形配置の主柱と床面壁際（壁から離れる場合もある）に設けられた壁柱が特徴となる。

②長軸方向：　後期中葉の楕円形住居を例にとると出入口と炉を結んだラインは短軸線上に乗ってくると言う特徴を持つ。

ウ：規模・面積

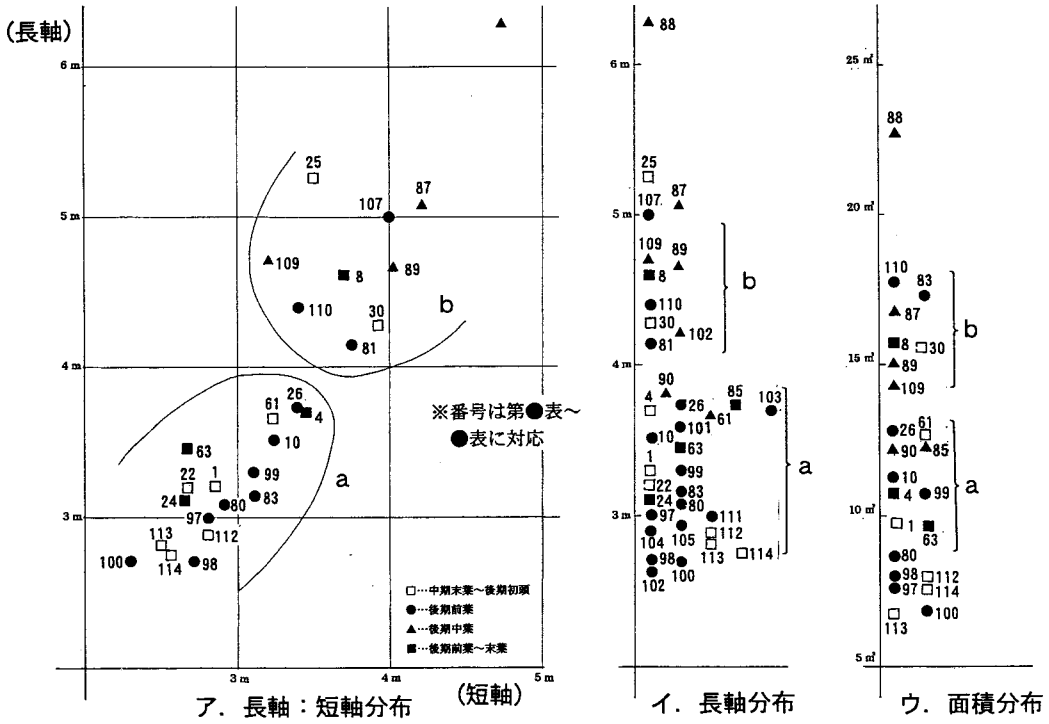
第73図ア～イは、規模（長軸と短軸の座標：長軸座標：面積）をあらわしたものである。

ア図・イ図からは直径４ｍを境として２つのグループに区分される。グループａには中期末葉から後期前葉の大方のものが含まれ、平面形は円形を基調とし、規模が小型のものである。一方、後期中葉には、直径4.5ｍを測る中型のものや、No.88のように大型と呼んで良いものが出現し、平面形態は楕円形を基調とする。

第73図ウは、面積分布を示したもので、ア・イ図と同じようにNo.88が突出するが14㎡を境に2つのグループに区分される。クループａには中期末葉から後期前葉のもの、グループｂには後期中葉のものが分布している。

エ：炉の形態と位置

第15表は、各時期の炉の形態別を表化したものである。天戸森遺跡の例から中期末葉まで複



ア．長軸：短軸分布　　イ．長軸分布　　ウ．面積分布

第73図　市内縄文中期末葉～後期末葉住居の相関図

第15表　炉の種類分類

形態 / 時期	地床炉	石囲炉					土器埋設石囲炉
		複式炉	石囲炉				
			円形	楕円形	方形	コ字	
中期末葉～初頭		1			30		
後期初頭			10.			26.	
後期前葉			98. 99 100. 101 103. 104 105. 106 107. 110 111		80. 81 83. 97 102. 112 113. 114		
後期中葉	85. 88 89. 90 109			87.			
後期後葉	24. 25.						
後期末葉	4. 22.						
後期末葉～晩期	63.						8
後期初頭～末葉			64		61		

データ検体数：３７軒

式炉、石囲炉、地床炉が共存することが調査によって判明している。

複式炉は後期初頭の居熊井遺跡の事例を最後に消滅し、地床炉も減少する傾向を示す。後期初頭に至ると石囲炉が主流となり、その形態は円形と方形が主体となる。炉が構築される位置は住居床のほぼ中央もしくは若干壁際にずれてくる。

中葉になると地床炉が主体となり、この流れは後期後半まで続き、石囲炉から地床炉に移行する事例は、赤坂Ａ遺跡のＳＩ13（No.87）とＳＩ17（No.89）との重複関係が示している。なお、炉の構築される位置は後期前葉の傾向を踏襲している。

オ：特殊な遺構

住居跡内で確認される特殊な遺構として上げられるのが、中期では長軸線上に穿たれた「特殊ピット」がある。晩期の市内事例としては、赤坂Ｂ遺跡で確認された祭壇状の施設がある。後期の遺跡である大湯環状列石や赤坂Ｂ遺跡からは、住居壁際に川原石を「コ字状」または数個を平置きした施設が確認されている。設置される場所に一定の決まりを有していない。内部に焼土が認められないこと、構築材である石に熱を帯びた形跡がないことから炉の機能を有し

第16表　参考住居一覧

番号	所在地	遺跡名	遺構名	構築時期	形態	規模 (m・㎡) 長軸	短軸	面積	炉の形態	炉の位置	柱配置	特殊な遺構
1	二ツ井町	鳥野	ＳＩ521	中期後葉～後期初頭	楕円形	7.80	7.00	42.60	石囲炉＋地床炉	石囲炉は壁際近く	対の８本＋1本	
2	八戸市	丹後谷地	15号	後期前葉	楕円形	4.70	4.00	10.03	地床炉	やや東寄り	壁柱	
3	八戸市	風張Ⅰ	1号	後期前葉	ほぼ円形	3.56	3.14		石囲炉	やや南西寄り	特定できず	
4	青森市	小牧野	1号	後期前葉	不整円形	4.56	4.07	13.60	石囲炉	東寄り	4本柱	
5	青森市	小牧野	2号	後期前葉	円形	5.29	5.06		地床炉	やや東寄り	8本の主柱と壁柱	周堤（テラス）
6	八戸市	丹後谷地	21号	後期中葉以前	円形	6.16	5.80	23.60	地床炉	やや南東寄り	特定できず	
7	八戸市	丹後谷地	20号	後期中葉以前	不整円形	7.30	6.60	31.60	地床炉	やや東寄り	6本の主柱と壁柱	出入口
8	小坂町	中小坂	ＳＩ11	後期後半	円形	4.33		12.1	地床炉	ほぼ中央	6本の主柱	
9	大館市	寒沢	ＳＩ01	後期後半	略円形	6.56	6.30		石囲炉	ほぼ中央	主柱は確定できず壁柱	
10	八戸市	風張Ⅰ	6号	後期後半	ほぼ円形	7.14	5.87		地床炉	ほぼ中央	4本の主柱と壁柱	出入口
11	八戸市	風張Ⅰ	36号	後期後半	円形	4.30			石囲炉	やや南東寄り	主柱と壁柱	出入口・周溝

番号は第74図に対応する。

いたと考えにくく、「特殊な施設」として報告されている。

この施設を「特殊」とする拠り所は、その出現が後期前葉に限定され、事例が極めて少ないこと、これに大湯環状列石では列石との関連を加えて祭祀的な要素の強い施設と考えているが、第二の道具（祭祀関連遺物）の出土と言った物証的な根拠に乏しい。

(3) 市外の後期住居の立地、形態と規模

第16表は、比較資料として掲載した。その概要を列記する。

・平面形……　中期末葉から後期後半にかけて、住居平面は円形・楕円形を基調とする。

・柱配置……　二ツ井町鳥野遺跡で確認された住居の柱配置は中期末葉～後期初頭といいながらも中期の柱配置を顕著に残している。後期前葉に入ると何種類かの柱配置を経て、中葉には方形配置の主柱と壁に沿った副柱へと移行する傾向にある。

・長軸方向…　後期前葉のものは長軸方向、中葉～後葉は単軸方向を意識する。

・規　模……　後期前葉は小型のもの、中葉～後葉は大型化する。

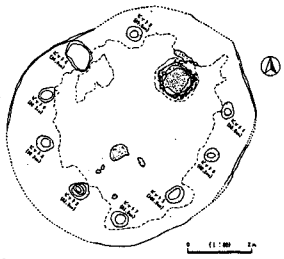
・炉の形態…　炉は後期前葉では石囲炉、中葉には地床炉が多くなる。

・炉の位置…　後期前葉のものは住居ほぼ中央または若干壁際に位置、中葉～後葉はほぼ中央に位置する。

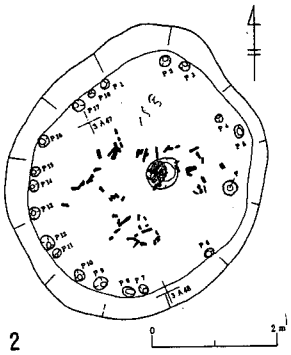
(4) 小　結

鹿角市内で発掘調査が行われた後期遺跡、確認された後期住居跡を中心にその概要をまとめた。事例が極めて少なく、且つ、その事例の多くが大湯環状列石の発掘調査で得られたものであることから市内で確認された後期住居跡に共通する特徴と言いがたいが、後期前葉と中葉の特徴的な事項を第17表にまとめた。

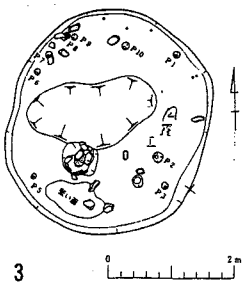
大湯環状列石で確認された後期前葉の住居跡は、項目で上げた特徴を兼ね備えているが、一方後期中葉の住居跡は立地以外の項目内容を満たしていない。赤坂Ａ遺跡で確認された住居は集落そのものを構成するものとして、大湯環状列石の住居は、祭祀（祈りとマツリ）を中心と



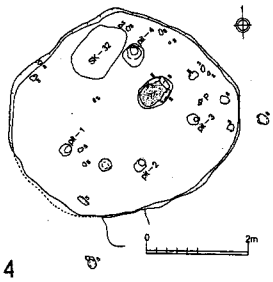
1
烏野遺跡ＳＩ５２１（二ツ井町）



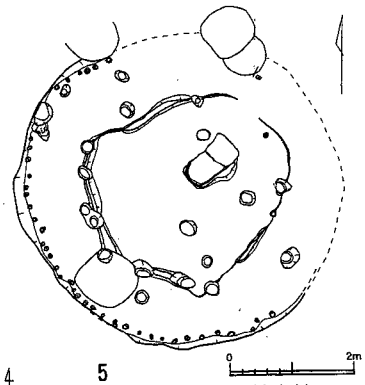
2
丹後谷地遺跡１５号住居（八戸市）



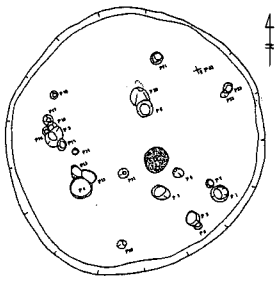
3
風張Ｉ遺跡１号住居（八戸市）



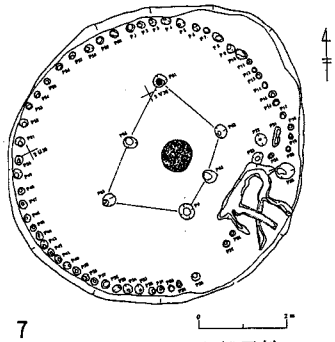
4
小牧野遺跡１号住居（青森市）



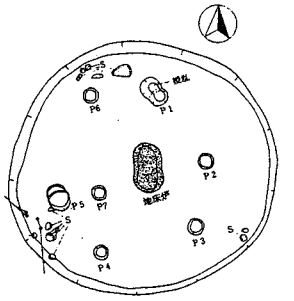
5
小牧野遺跡２号住居（青森市）



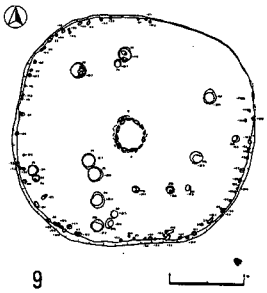
6
丹後谷地遺跡２１号住居（八戸市）



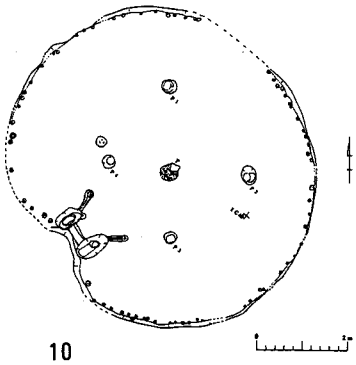
7
丹後谷地遺跡２０号住居（八戸市）



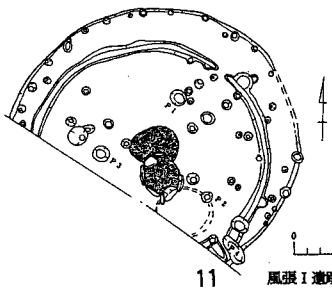
8
中小坂遺跡ＳＩ１１１（小坂町）



9
寒沢遺跡ＳＩ０１（大館市）



10
風張Ｉ遺跡６号住居（八戸市）



11
風張Ｉ遺跡３６号住居跡（青森市）

※実測図については
収載報告書から

第74図　参考住居跡

第17表　後期初頭～中葉住居の共通事項一覧

	後期初頭から前葉	後　期　中　葉
遺跡の立地	台地縁辺部に立地する。中小坂遺跡以外は前方に開けた景色が展開する 住居跡の分布範囲が狭く、小規模集落が想定される	
住　居　跡		
平 面 形	円形及び楕円形を基調とする	楕円形の比率が多くなる
柱 配 置	炉を囲むように対の４本柱 壁際に配置	ほぼ中央に位置する炉を囲み、方形配置の主柱と壁際に配置された補助柱
長軸方向	長軸方向を意識	短軸方向を意識 （出入口と炉を結んだラインが長軸方向と直交する）
規　模 面　積	直径４ｍ未満が大半を占める	やや大型となる
炉の種類	石囲炉が主体（円形や方形）	地床炉が主体
炉の位置	床のほぼ中央または若干壁際に寄る	床のほぼ中央または若干壁際に寄る
特殊施設	壁際に石を「コ字状」に配置、数個の石を平置した施設を有する。 出現割合は低い。	特殊施設とは言いがたいが出入口が明確にされる。
条件を満たす市内の遺跡	大湯環状列石 赤坂Ｂ遺跡	赤坂Ａ遺跡

して営まれた遺跡の一端を構成する施設としての性質を反映しているものだろうか。

これまでに行われた調査によって万座環状列石北西側～西側台地縁（F_1区・D_9区）を中心に後期前葉～中葉の住居跡が13軒（前葉12棟・中葉１棟）、野中堂環状列石周辺で２軒（前葉１棟・中葉１棟）の住居跡が確認され、いずれの地域の住居跡も２つの環状列石とそれに続く環状配石遺構の構築（存続）時期と時期を同じくしている。このうち後期前葉の構築時期を与えた住居が同時に存在したものか、時間差を持って継続されたものかは土器形式・様式が一様であり、しかも重複も示しておらず変遷がはっきりとしない。

市教委では大湯環状列石で住居跡が確認されて以来、後期に入ると拠点的な集落が後退し、集落が小規模化・分散化するという研究成果を背景に、２つの環状列石とも配石遺構数基～十数基で構成される12～13の小塊（集落を構成する家族に対応）から成り立っていること、さらに出入口施設により万座環状列石は３～４つの小塊からなる大塊（数家族が集合した集落）に区画されること、確認された住居跡数からここで生活したであろうと思われる延人数と列石を構成する配石墓数より推察すると片寄りが生じることから、環状列石の構築に携わってきた集落は複数とし、列石を管理と祭祀を司る集落以外はわずかに離れた地に所在すると見解を示してきた（第３図）。その候補となる遺跡については第Ｉ章２「大湯環状列石周辺の遺跡」に上げ、その概要を記した。

現在確認されている万座環状列石の北西側（F_1区）・同西側（D_9区）の住居群（集落）は

列石を管理し、祭祀を司る集落に当るのだろうか。列石構築当初から特殊施設を持った住居跡１軒を含む数軒で構成される小さな集落が存在したという前提のもとに推測すると、①各群で確認された住居に重複がみられないことから、万座・野中堂環状列石を管理し、祭祀をつかさどる集落が西側台地に入り込んだ沢を挟みF_1区とD_9区に同時存在した。②F_1区の住居群がD_9区に移行し（この逆もありうる）、２つの環状列石の管理と祭祀を司る。という仮説を提示することができる。

しかし、上記の仮説を立証していくためには、特殊住居であること、住居の構築時期、環状列石との関連をはっきりとさせるとともに、祭祀遺跡と密接に関連する他集落の検証が必要となってくる。（藤井安正）

２．トレンチ掘り調査の利点から

特別史跡大湯環状列石では遺跡の解明が進んだこと、環境整備事業に必要な資料が得られたことから、第17次調査より、それまでの面的な発掘調査から遺跡の保護を最優先としたトレンチ掘り（溝掘り）を多用した調査へと移行した。そのため、当該年度の調査区全体の遺構・遺物の分布状況及び各遺構の全容についてはやや不明確さが残るものの、反面、遺構確認面・構築時期、遺構の堆積状況等の遺構精査に必要な残存する資料が増加したことから、面的な調査と比較し、遺構構築面がより明確になる等の情報が得やすい利点を生んでいる。

本調査区でも、この利点から多数の情報を得ることができ、本項では成果の一つといえる、G_4区検出第１号竪穴住居跡の堆積土状況についての考察を述べたい。

３．G_4区検出第１号竪穴住居跡の堆積状況について（第75図）

本竪穴住居跡は、人為的に埋められた遺構であり、残存する堆積土状況から本住居跡の埋土方法をつかむことができた。以下各段階ごとに記述する。

第Ⅰ段階

第Ⅰ段階は、住居の大半が埋められるが、特に壁が崩壊しないように、先に壁際が重点的に埋められている。覆土は、住居の中央部付近では、薄くなっており、破棄され床面に散乱した炉の石や「コ」の字状施設の石が見えなくなる程度の厚さで終えられる。

第Ⅱ段階

第Ⅱ段階は、「コ」の字状施設を保護するかのように、施設部付近を住居が掘られた面まで先に埋められる。また、第Ⅰ段階で埋め残されていた壁部がこの段階で全て埋められ、住居としての形態はほぼ無くなる。

この第Ⅱ段階で特に注目されることは、埋土に混入している完形復元土器の出土状況である。